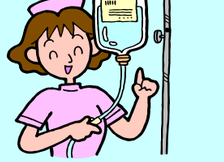
乳腺　化学療法（GEM療法）を受ける患者さんへ



【患者さん用クリニカルパス】

ID　　患者氏名　　様

	化学療法当日 月　日 化学療法前	化学療法中	退　院
目　標	治療の経過や副作用についてわかる。	予定どおりに治療が終了する。 症状出現時は適切な対処が受けられる。	退院指導の内容がわかる。
説明・指導	予測される副作用および予防法、 出現時の対処方法について説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、 腫れたり、重苦しくなったらすぐに教えてください。 ふらつきやめまいがある時は、必ず看護師を呼んでください。 副作用症状がひどい時は、遠慮せずに話してください。	医師の診察後に退院となります。 次回から外来化学療法を行う場合は、 外来化学療法室のご案内・説明を行います。
治療 処置 点滴	点滴の針を入れ準備します。 点滴の準備ができ次第、点滴をはじめます。  	抗がん剤の主な副作用 発症時期による症状と対処方法について 【点滴開始から１時間】 ・投与時過敏症状：投与中あるいは投与数時間後にかゆみ、息が苦しい、発熱、汗が出るなど様々な症状が出た場合、すぐに教えてください。 ・注射部位反応：投与中に投与部位の痛みや赤み、腫脹がある場合には、すぐに教えてください。 ・吐き気、嘔吐、食欲不振などの消化器症状：吐き気止めのお薬を使用します。 ・関節痛、筋肉痛：漢方や痛み止めのお薬を使用することがあります。 ・手指のしびれや手足のピリピリとしたしびれ、感覚が鈍くなるなどの症状が起こることがあります。 ・白血球減少や好中球減少に対して、G-CSF製剤（白血球を増やす薬）を注射することがあります。 【数週間から数か月】 ・貧　血：めまい、立ちくらみなどの症状があります。立ち上がる際には、転倒に注意しましょう。 ・出　血：鼻や歯肉から出血がみられたり、痰に血が混じることがあります。 ・脱　毛：３週間程度で脱毛します。必要に応じてウィッグやバンダナ、帽子などを準備しましょう。 ・間質性肺炎：呼吸苦、咳が続きます。発熱を伴うことがあります。 【その他の副作用】 ・動悸・息切れ　・下痢　・口内炎　・疲れやすい　・強い腹痛　・味覚異常　・むくみ　・血管痛 	
内　服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服となります。 		必要に応じて、吐き気止めや便秘薬の処方を行います。 その他、希望がある際は、お申し出下さい。
検　査	次の検査をすることがあります。 血液検査、胸のレントゲン、心電図検査 	開始５分後、10分後、15分後に体調を確認します。 終了時に血圧を測ります。	外来で採血をして、骨髄抑制（白血球減少、貧血、血小板減少）の有無を確認します。 白血球減少が認められた場合は、次回の化学療法を延期し、G-CSF製剤（白血球を増加させる薬）を注射します。 うがい、手洗いをし、マスクをつけ感染予防をしてください。
食　事	 化学療法によって、食事の制限はありません。通常どおりに摂取してください。		
生活・行動	特に行動制限はありません。抗癌剤の副作用により転倒・転落の危険性が高くなるため注意しましょう。		
清　潔	点滴当日からでも、入浴、またはシャワー浴ができます。		
その他	抗癌剤点滴開始初期（特に１０分以内)に発疹や顔が赤くなってほてるなどのアレルギー症状が現れることがあります。 ほとんどは一時的なものでおさまりますが、症状が出現した場合は申し出て下さい。		38.5℃以上の発熱があった場合には、受診するようにしましょう。 アピアランスケアについての相談窓口があります。 その他にも気になることがございましたら、お電話ください。

注）予定等は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

岩手医科大学附属病院
外　科